

# 令和5年度現職研修助成事業研修報告

下関市立豊田下小学校

## 研究主題

生き生きと活動し、主体的に学ぶ児童の育成  
～見通しをもって、みんなで学び深める授業をめざして～

### 1 研究主題設定に当たって

以下のような実態をもとに本研究主題を設定した。

#### 児童の実態（これまでの研究における課題を踏まえて）

本校では単式・複式学級が併存しているため、学力向上を図るために、特に国語科と算数科の指導の在り方を見直し、模索してきた。

その中で次のような本校児童の実態が見えてきた。

- リーダー学習を取り入れ、ガイドを参考にしながら、一人学びや学び合い活動を自分たちで進めることができるようになり、自主的な学びの意識と方法は身に付いてきた。
- ・一方、ガイドに頼りすぎず、児童自身が共通のめあてを持って話し合い、とも学びの中で深め合うという本当の意味での主体性を育てる必要性を感じている。
- 明朗快活で素直。相互に励まし合い、友達と仲が良い。他者に対して受容的態度である。
- 行事・諸活動に意欲的で、勤労をいとわず、協力的である。
- ・対立を好まず、流されやすい面がある。依頼心が強く、積極性や計画性に乏しい。
- ・授業では、少人数ということもあり、多様な意見が出にくく、学習が深まりにくい。
- ・コミュニケーション能力が不足しているため、話し合いの中での練り合いによる思考の深まり（学び合い）が十分ではない。
- ・自分の思っていることを上手く伝えられないことや、語彙力の不足により、教師や友だちの発言や、文章に書かれていることを正確に理解できないことがある。

### 2 研究仮説

「生き生きと活動し、主体的に学ぶ児童」とは、子どもたちが課題に向けて自分たちで道筋を立てて学習を進めていくことができる姿であると捉え、次のような研究仮説を立てて、共通の視点として日々の授業研究に取り組んでいきたい。

- ①自分たちで学習を進めるためのガイドの工夫がされていたか。
- ②子どもに任せる場面を確保するとともに、教師が関わる場面を明確にして指導していたか。

#### 研究のキーワード

リーダー学習 学習集団の育成 主体的・協働的な学び 話し合い活動の充実

### 3 研究課題解明のための取組

(1) 授業改善のための取り組み

① 研修ビジョンの作成・校務分掌(研修)→研修ビジョン

- 研究仮説をもとに、児童の実態を把握し、理想とする児童像を描き、そのための手立てを具体的に考え、実践・検証していく。
- 中間評価を行い、修正を加えていく。次年度につなげていく。

② **豊田下小学校・スタンダード — 授業づくり、学習指導の手引き —**

○ 豊田下小授業づくり10の視点

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. ねらいの明確化       | 2. ねらいを達成させるための工夫     |
| 3. 精選した発問        | 4. わかりやすい指示と指示の確認     |
| 5. 時間差への対応       | 6. リズム、テンポのよい授業       |
| 7. 多様な活動、変化のある授業 | 8. 評価を取り入れる（個別・全体）    |
| 9. ほめる           | 10. めあての提示と振り返りの確実な実施 |

③ 授業研究

- 一人一授業とする。（国語科・算数科）
- 研究課題に基づいた授業参観の視点を設定することによって、効果的な研究協議会を運営する。

④ 自主公開授業

- 日々の授業力の向上をめざして、互いに授業を公開し合い、学びの場とする。

(2) 学力向上のための取組

全校同一歩調で、児童の学力向上をめざす。

① **『豊田下小学校 スタンダード』 — 授業づくり、学習指導の手引き —**

○ 「豊田下っ子 3つの学習のやくそく」

- ・ふでばこの中には、必要な物のみ。
- ・授業が始まる前には席についています。「す・あ・し」
- ・家庭学習を毎日します。(10分×学年+α)

② 確認問題等の分析・考察 及び それらを受けての実践 (10月本校で実施予定)

③ 学力向上プラン(国・算)の作成 ……校務分掌(研修)→学力向上プラン

- 基礎学力の向上をめざして、具体的で具現化しやすいもの
- 中間評価を行い、修正を加えていく。

④ 昼の読書 (10分間 週3回) ・読み聞かせ (月1回)

様々な読み物に触れ、情緒を養い、文章力や語彙力をつける。

⑤ 視写 (木曜日の朝学)

- 低学年 ……読売ワークシート等の視写 (子ども新聞等の活用)
- 中・高学年 ……子ども新聞等の視写、感想

⑥ 算数チャレンジ・やまぐち学習支援プログラムの活用 (朝学・5校時前)

- ・基礎基本問題→文章問題、活用・発展問題へ。
- ・地域人材の活用 (赤ペン先生)

⑦ タブレットタイム (週1回)

- タブレット内のアプリを使った学習

⑧ 家庭学習の定着

- 「家庭学習のころえ」「家庭学習のすすめかた」を活用し、家庭学習の定着を図る。

→よい自学の例・見本など具体的なものを探し、参考にする。

- 中学校のテスト週間に合わせて「家庭学習がんばった週間」を設け、自分で目標を立てて学習する習慣をつける。

#### 4 主な研修の内容

(1) 研究主題解明のための研修

- ・主題研修 (個人研修・ブロック研修・全体研修)

- ・研究主題解明のための研究授業 (一人一授業)

- |            |              |
|------------|--------------|
| 9月13日 (水)  | 6年算数「柱体の体積」  |
| 9月27日 (水)  | 1年算数「ながさくらべ」 |
| 10月25日 (水) | 2年算数「かけ算(2)」 |
|            | 3年算数「何倍でしょう」 |
|            | *市教委研修支援訪問   |

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 11月22日 (水) | 4年算数「図を使って考えよう」  |
|            | 5年算数「単位量あたりの大きさ」 |



1月17日（水） 情緒学級1年算数「大きいかず」  
4年算数「調べ方と整理の仕方」

(2) 教員の資質を高めるための研修

・ユニット型研修

5月29日（月）／2月16日（金）  
（学校運営協議会委員を招いて）

・指導者を招いた研修

9月15日（金） 「子どもに力をつける複式授業（国語科）を考えよう」

12月 4日（月） 「盲導犬の活躍について」

・「振り返り」を活用した授業づくり研修会

1月30日（火）豊東小学校での提案授業に参加

#### 4 成果と課題

昨年度の複式授業の課題として、「リーダーとなった児童がカードの指示を読むだけでは、主体的な学習を進めているとは言えない。」ことが挙げられた。子どもたちが、カードをもとに自分たちで授業を進められることが、主体的な姿であり、そのような姿を引き出すために、リーダーカードを工夫することに取り組んでみようということになり、今年度の共通の視点となった。初めて複式学級を担当する教員も、子どもたちにリーダー学習を経験させながら、児童の経験や状況に応じて、担任は児童ができること任せられるようになっていった。また、昨年度は複式で授業を受けていなかった現2年生が担任不在の日の朝、自分たちで話し合っリーダーカードを作り、板書をする準備をする場面もあった。このような各学級の子どもたちの状況を踏まえ、校内研修では、「豊田下小学校学習ガイド（低学年用）（中・高学年用）」の改訂を行った。



また、授業研究を重ねるごとに、主体的な学習者を育てるためには、「まとめ」と「振り返り」を自分たちの言葉で述べたり、書いたりすることの大切さを教員全員が意識するようになった。最初は、「子どもたちの言葉が続かない。」「結局担任がまとめをしてしまった。」など、模索をしながらも、授業での時間配分や担任の投げかけを工夫することなどが反省点として挙げられた。その中で、子どもたちがリーダーとなって進めていても、やはり担任は「子どもたちの理解度や定着度をしっかりと看取ること」、「授業のゴールがぶれないように必要なときこそ関わること」が最も大切ではないかという結論に達した。



複式で行う授業では、子どもたちが自分たちで授業を進めることから、主体性を伸ばすよい環境ではあるが、その授業の中で、子どもたちの「分かる」「できる」「楽しい」を保障することが一番大切であることを改め教員全体で確認し合った。

今後は、子どもたちの主体性を伸ばすために引き続きリーダー学習を充実させるとともに、子どもたち一人ひとりの学力の向上につながるよう、授業の中での看取りを大切にする授業づくりに力を入れていきたい。